

(一社)陸前高田市建設業協会 住宅再建推進協議会 (平成26年度実施)

# 住宅の自立再建等に関する意向調査 集計報告

## < アンケートの概要 >

調査者：(一社)陸前高田市建設業協会 住宅再建推進協議会  
 調査協力：住田町、(一社)SAVE IWATE もりおか復興支援センター (滝沢市避難者を含む)、  
 NPO 法人 紫波さぶり、陸前高田市仮設住宅連絡会  
 調査期間：平成26年11月下旬～12月中旬  
 配布・回収状況：配布1995通、回収473通、回収率23.7%  
 アンケートに関する問い合わせ：北方建築総合研究所 石井(0166-66-4228)



連絡会通信  
 特別号  
 Vol.3  
 2015年2月8日  
 《共同発行》  
 (一社)陸前高田市建設業協会  
 住宅再建推進協議会  
 陸前高田市仮設住宅連絡会  
 〒029-2205  
 陸前高田市高田町字鳴石5-1  
 第一中学校仮設住宅 集会所内  
 (0192) 47-4385  
 rikutakakasetu@gmail.com

**集計結果がまとまりました！**

このアンケートは、「(一社)陸前高田市建設業協会 住宅再建推進協議会(以下、協議会)」が市からの補助を受けて実施いたしました。

協議会は、前回の調査結果を基に、地元生産者と共に、住民に寄り添った「相談対応から再建まで」のお手伝いを目的に発足致しました。

今回のアンケートは、変化していくニーズを把握してお応えしていくために、改めて実施させて頂きました。

皆さまのご協力により、主に住宅の自立再建を目指す方を中心、多くのご回答を頂きました。厚く御礼を申し上げます。

本報告では、前回の結果との比較を行いながら考察していきます。ご参考にして頂ければ幸いです。

※前回の調査結果は、二〇一四年二月二十日発行の「連絡会通信 特別号」をご参照下さい(前回調査者：気仙・広域環境未来都市推進事業体)。

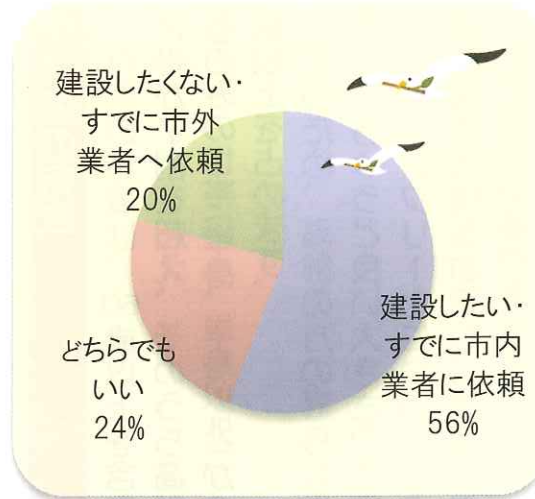
【連絡会より】  
 当会は、協議会の特別会員です。住民の皆さんの再建に関する想いを協議会に繋げるため、今回のアンケート調査や相談会等に携わっています。お気軽にお声掛け下さい。

## 住宅再建に関するご希望

### ①地元の住宅会社における住宅建設の意向と理由

住宅再建を目指す方の56%は「地元建設会社で建てたい・すでに市内業者に依頼」と考えており、前回よりも増加しています。

一方、「どちらでもいい」は減少し、「建設したくない・すでに市外業者に依頼」は増加しています。「親類・知り合いがいるから」という理由で、市外業者に依頼される方も多いようです。

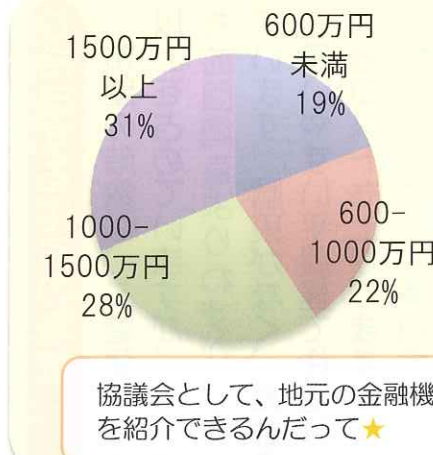


多くの人の住宅再建はこれから協議会では、地元の工務店の紹介もしているよ★

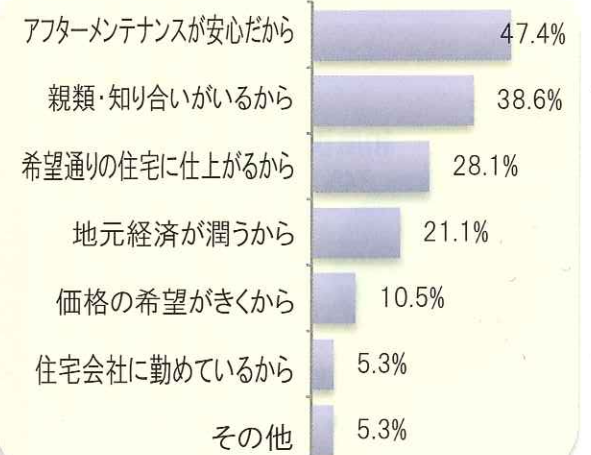


### ②補助金や助成金を除いた自己負担額(借入を含む)

住宅再建のための自己負担額(借入を含む)は、1千万円以上が約6割と、前回の結果を上回った一方、600万円未満の割合には、変化がありませんでした。



協議会として、地元の金融機関を紹介できるんだって★

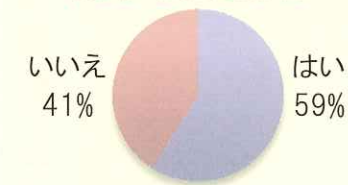


### ③住宅再建推進協議会について

平成26年6月に支援活動を開始した協議会では、前回の調査結果を基に、住宅再建の支援制度の紹介や間取りの作成支援等、住宅再建の後押しをして参りました。

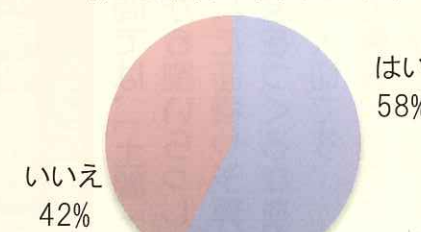
また、「住宅再建者向けガイドブック」や「モデルプラン集」の作成、フェイスブック<sup>※</sup>を通じた情報発信にも努めています。

#### 住宅再建推進協議会を知っていますか



※1 フェイスブック  
 インターネット上の公開ページ  
 「一般社団法人 陸前高田市建設業協会 住宅再建推進協議会」で検索！

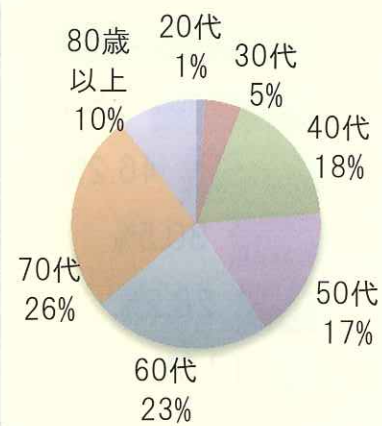
#### 住宅再建推進協議会に住宅再建を申し込みたいと思いますか(住宅業者が未決定の方)



### 回答者はどんな人？

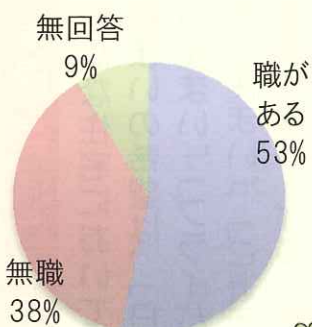
#### ①世帯主となる方の年齢

世帯主となる方の年齢構成は、昨年と同様に、60代以上が合わせて約6割を占め、依然として高い割合になっています。



#### ②お仕事の状況

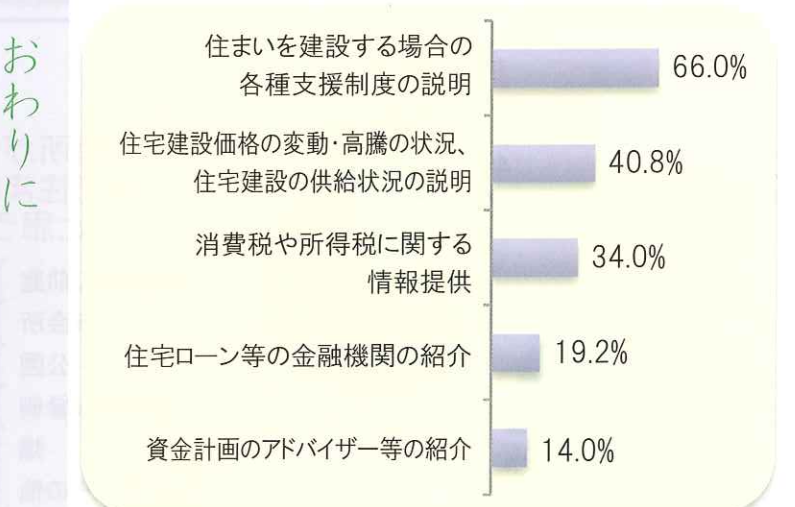
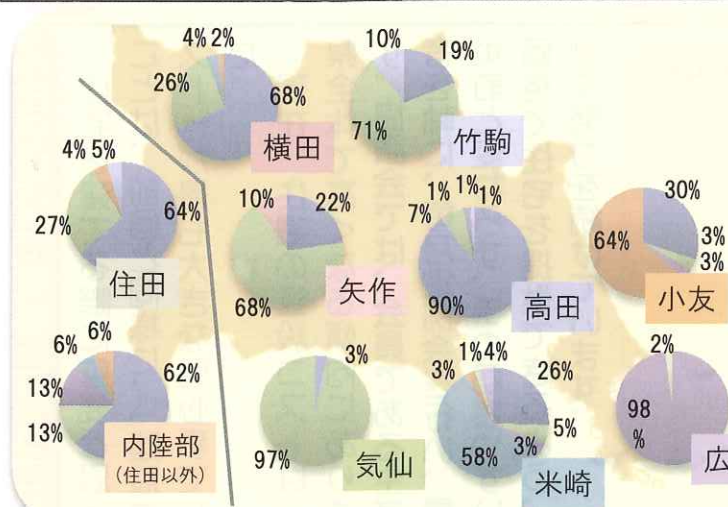
ご回答者は、自営業・会社員など何らかの仕事に就いている方が53%で、仕事についていない方は38%でした。



### ③仮設住宅ごとの出身地区

仮設住宅の所在地毎にご回答者の「元住んでいた場所」をみています。今回、新たに「ご回答頂いた内陸部(住田以外)のみなし仮設住宅にお住まいの方は、高田・気仙・米崎・小友・広田出身。未だ、多くの仲間が市外で生活されています。早く故郷へ戻ってこられるよう、私たちも出来る限りお手伝いしたいと考えています。

凡例：出身地  
 ■高田町 ■横田町 ■気仙町 ■広田町 ■米崎町 ■小友町 ■竹駒町 ■矢作町 ■市内その他 ■無回答



**おわりに**  
 アンケートにご協力を頂き、誠にありがとうございました。住宅再建推進協議会では、皆様のご意見を基に、これからも住宅再建のお手伝いをさせて頂きます。

尚、次年度も毎月第一金曜・土曜に「住宅再建無料相談会」を開催、お住まいの地区への「出張相談会」に加え、「相談コーナー」の開設等を行って参りますので、是非、ご活用下さい。今後とも、宜しくお願い申し上げます。

お問い合わせ先  
 《住宅再建推進協議会》  
 陸前高田市竹駒町字大畑  
 (一社) 陸前高田市建設業協会  
 ☎0192(55)5779

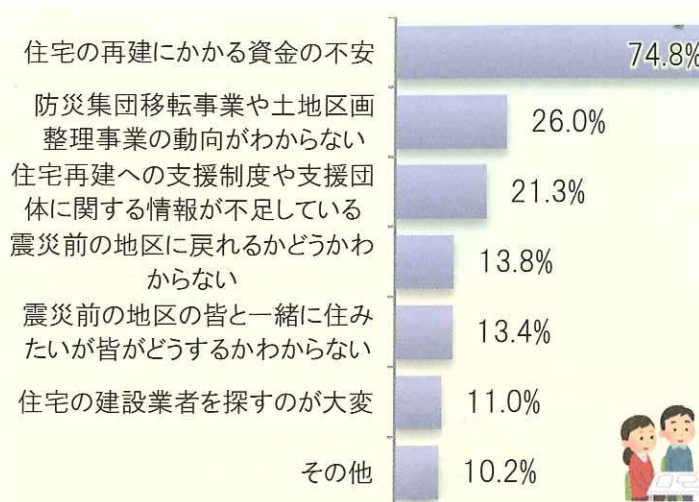


## お住まいへの希望

### ①住宅再建への不安

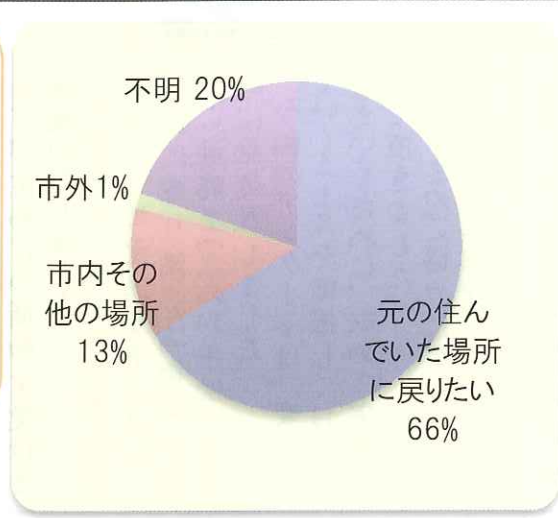
仮設住宅・みなし仮設住宅にお住まいの方の、「わからない」という情報不足による不安も含め、協議会として次のことを強化・拡充していくこととしました。

- 相談・支援体制の充実
  - 無料相談会(建築士も同席)・出張相談会・地域別ニーズに沿った相談会・相談コーナーの開設・市の担当窓口(補助金の説明)との連携など
- 繋がるためのサポートの強化
  - 地元の業者や金融機関、弁護士・二重ローン問題等)の紹介など



### ②住みたい場所

「ご回答の、「元住んでいた場所」と「今後住みたいと思う場所」を比較してみると、割合は低下したものの、前回同様、**多くの方が「元の場所に戻りたい」と希望している**ことがわかりました。多少の低下には、元の地区の造成がまだ先ということが影響しているのでしょうか。しかし、「市外」の割合が少ないことから、全体では郷土愛が強いことが伺えます。



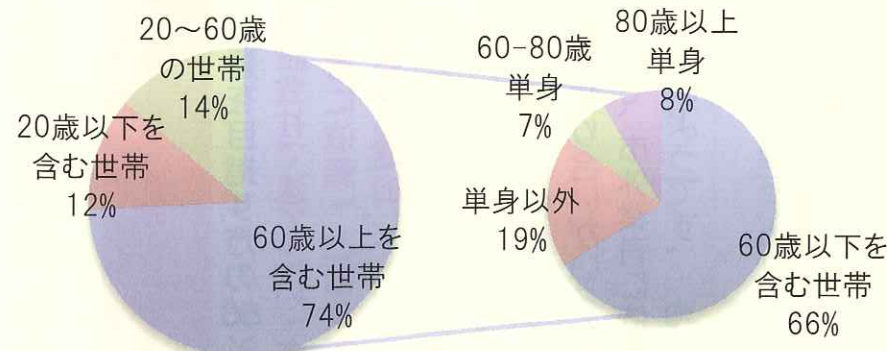
陸前高田市に戻る予定の市外に避難している人も、陸前高田市の現状や活用できる情報を今よりもわかりやすく取得できれば、安心して戻って来られるのかもしれないね★

### ⑤世帯の特徴

世帯の特徴は、60歳以上を含む世帯が7割を超え、そのうち高齢者のみの世帯(単身、単身以外)が3割以上を占めます。

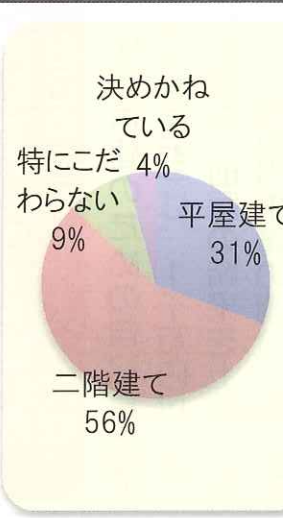
このため、高齢の方の暮らしに合ったちょうど良い大きさの住宅や、バリアフリー化について市の補助金の活用を想定し、間取りを考えていく必要があります。

世帯の特徴 (左: 全世帯、右: 60歳以上を含む世帯の抜粋)



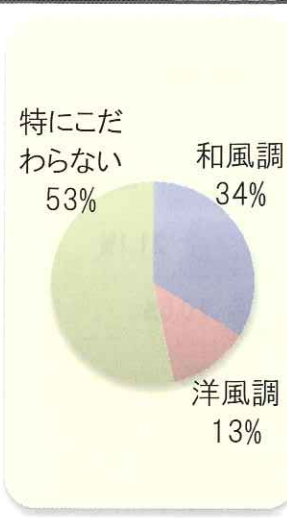
### ⑥希望する住宅の階数

希望の階数は、二階建てが半数以上を占めています。平屋建ても前回調査よりわずかに増加しています。階段がなく、高齢者にも使いやすい平屋建て住宅は、その分コストも上がりますが、⑤と併せて、敷地との兼ね合いによる間取りなどの工夫次第で、実現に近づきます。



### ⑦住宅の外観デザインへの希望

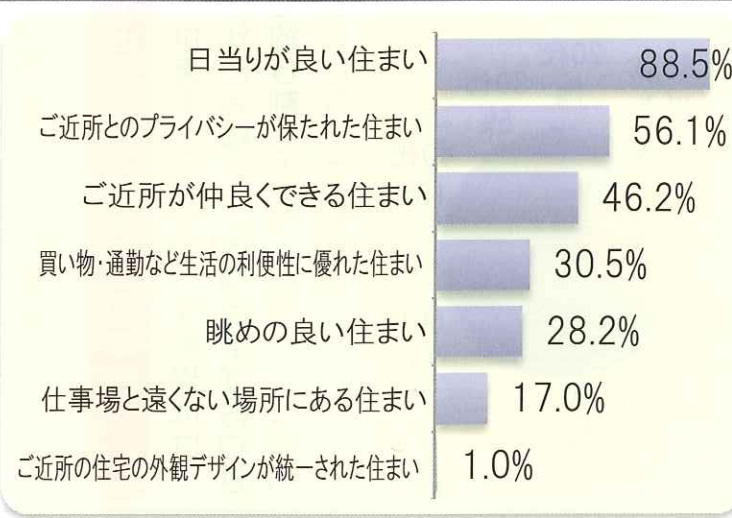
「和風調」と考えている方の割合が多い結果となりましたが、どちらであっても、陸前高田の美しい風景に合った住宅再建を考えていければと思います。



### ③新たな住宅において実現したいと思う住まい

新たな住宅において実現したい住まいの希望は、「日当たりがよい住まい」「プライバシーが保たれた住まい」「ご近所が仲良くできる住まい」が多く回答されていました。

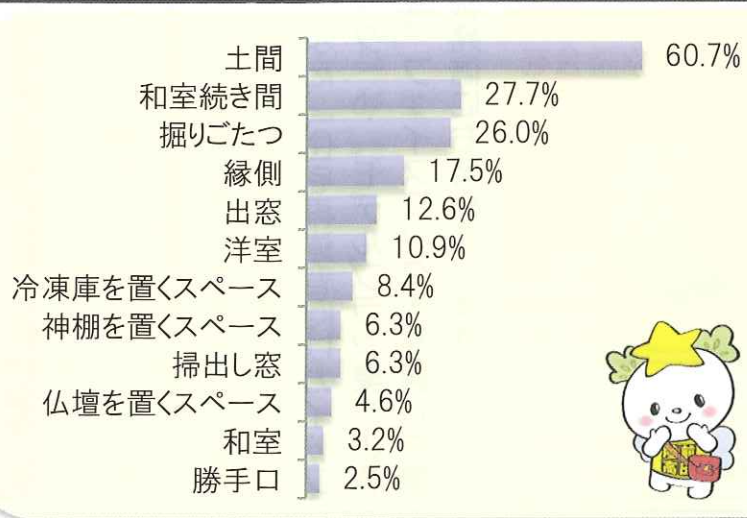
なお、地域によっては、「ご近所が仲良くできる住まい」が「プライバシーが保たれた住まい」より多い地域もありました。地域性やコミュニティの特色が表れる結果となりました。



### ⑧室内空間や間取りに関して不要と考えるもの

室内空間では、「土間」は不要と考える方が6割いらっしゃいました。限られた面積や予算の中で、どんな部屋をつくるかを考えることはとても大切です。

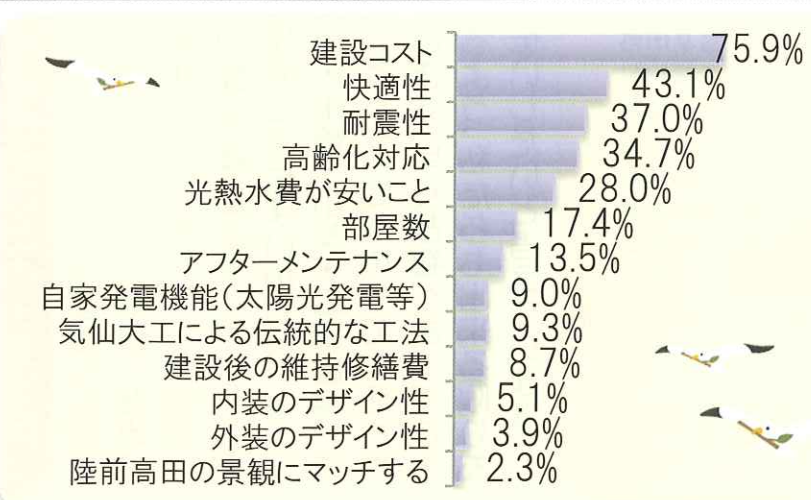
**協議会の無料相談会では、世帯人数やこれからの見据えて、本当に必要な生活空間を考えるために、皆さんからの相談に相談員や建築士が応えています。**



### ④住宅建設で重要と思うこと

住宅を建てる際に重要と思うことは、前回と同様に、「建設コスト」が最も大きな関心事でした。

現在、住宅の建設コストは、県全体で高くなる傾向にあります。協議会では、会員である生産者を軸に、毎月定例会を行い、震災前と変わらず、手の届きやすい価格で住宅を提供できるよう、日々努力を続けています。



### ⑨お住まいの外部空間に必要と考えるもの

お住まいの外部空間に必要なものとして、花壇などの前庭や、自動車の駐車場、物置について必要と考える方が多くいらっしゃいました。限られた敷地の中で、これらの配置なども現実的に考えていく必要があります。



自家用車の台数

